

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	1490900055
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	グループホーム みんなの家 横浜小机
訪問調査日	平成20年5月15日
評価確定日	平成20年 7月14日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1490900055		
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホーム みんなの家 横浜 小机		
所在地	〒222-0036 横浜市港北区小机町4-28-8 (電話) 045-473-6667		
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	〒223-0058 横浜市港北区新吉田東5-76-35		
訪問調査日	平成20年5月15日	評価確定日	平成20年7月14日

【情報提供票より】(20年4月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 4 人, 非常勤 15 人, 常勤換算 11.3 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(入居時償却)	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月24日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菊名記念病院、新横浜中央クリニック、中川歯科診療所
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・事業所はJR横浜線小机駅から徒歩5分の農地に囲まれた閑静な環境にある。 ・理念は和(信頼、安らぎ、笑顔)、輪(地域との交流、助け合い)、心(健康、安全、その人に合ったケア)をキーワードにしており、全職員が参加して作ったものである。 ・地域との関係では本年4月に自治会に加入した。近隣の方々とも日常的な交流も深まり、農家から野菜を戴いたり、また、美容院、歯科医院とも顔なじみになっている。 ・毎月2回ケアカンファレンスを行って、家族の意見、本人の希望、医師の意見もと入れ、それに基づいて3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行なっている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成19年7月に開設し、今回が第1回の外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	・全職員が法人本部スタッフから評価の目的、意義について研修を受け、各人が自己評価を記入し管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	・3月に町内会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、事業所関係者が参加して行なった。2回目を6月に予定している。 ・事業所の現況と今年度の予定を説明し、意見交換と討議を行なった。自治会への加入、地域内のグループホームとの連携、災害時の連絡網などの報告や提案を行い、実現に向けて努力している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	・家族の来訪時に、意見、要望を聞き、個人別の連絡帳に記録して職員間の共有をはかり、対応に結び付けている。 ・ご意見ポストを設置してあるが、現在まで利用実績はない。またその他の不満、苦情の申し出もない。
重点項目④	また
	・4月に自治会に加入した。自治会行事を家族に知らせ、事業所として積極的に参加する予定である。 ・近隣の方々とは日常的な交流も深まり、農家からさくらんぼ、じゃがいもをいただき、また、美容院、歯科医院とは顔なじみになっている。 ・7月の事業所一周年記念行事には自治会にも参加をお願いする予定である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> ・理念は和(信頼、安らぎ、笑顔)、輪(地域との交流、助け合い)、心(健康、安全、その人に合ったケア)をキーワードとして、地域密着型サービスの具現化に努力している。 ・理念を各フロアに掲示している。家族には「一言通信」に記載して報告している。 ・地域の方々の理解を深めるため、この理念を本年6月開催予定の運営推進会議で説明することとしている。 		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・理念は職員全員で作成しているので、職員一人ひとりが理念の「和」「輪」「心」の持つ意味を良く理解し、日々の介護での具現化に努力している。 ・更に毎月開催の全体会で理念について話し合っ、日々のサービス向上に努めている。 		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に自治会に加入し、今後利用者の積極的交流を図るために、7月に予定している1周年行事には自治会の方々をお招きするように計画している。 ・近隣の方々とも日常的交流が深まり、農家からは野菜を頂いたり、美容院や歯科医とも顔なじみになっている。 		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が法人本部スタッフから評価の目的・意義について研修を受け一人ひとり自己評価を記入し管理者がまとめた。 ・自己評価と外部評価の結果は、家族、運営推進会議に報告する予定である。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回運営推進会議は、3月に町内会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、事業所関係者が参加して行なった。 ・会議では、事業所の現況と今年度の予定を説明し、意見交換と討議を行なった。自治会への加入、地域内のグループホームとの連携、災害時の連絡網などの報告や提案を行った。 ・次回開催は6月に予定している。 		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の開催を契機に港北区役所担当者ともコミュニケーションを良くとっている。今後とも、港北区担当者との連携を密にして問題解決を図るとしている。 	○	区役所担当者との連携を密に行い、行政と事業所相互間の更なる協力体制を築き、事業所のサービスの質の向上に取り組むことを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族への連絡は、毎月1回、利用者のホームでの生活ぶり、ホームの行事や職員紹介等を掲載した広報誌「一言通信」と、金銭管理報告を送っている。 ・その他、必要に応じて電話で報告や連絡を行っている。 ・家族来訪時には担当職員が面談して、利用者のホームでの生活ぶりなどを詳しく伝えている。 		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の来訪時に、意見、要望を聞き、個人別の連絡帳に記録して職員間の共有をはかり、対応に結び付けている。 ・ご意見ポストを設置してあるが、いままで利用実績はない。またその他の不満、苦情もでていない。 		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の離・退職を少なくするため、管理者、職員間の人間関係を大切にしてお互いに信頼できるように務めている。 ・管理者は職員の悩みなどを随時聞き、働きやすい環境作りに務めている。 ・結果として職員の就業は安定し、現在のところ利用者への影響は殆どない。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人本部が新人研修を入社後1ヶ月以内に行い、その後のフォローアップ研修も職階別に計画的に実施している。 ・更に、今年度から横浜地区研修委員会・ケアプラン委員会を設置し、毎月1回、ホーム長やケアプラン担当者に対する研修を開始した。 ・その他、外部研修情報も職員に提供し、参加を促している。	○	職階別研修など法人による育成システムが有効に機能し、管理者、職員のレベルアップを確実にするために、研修結果の報告書を事業所に提出し、発表する機会を設けることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・法人内外のグループホームとの積極的交流により、職員の資質向上を図るため、横浜市グループホーム連絡会に加入すること、及び同一法人内グループホームとのネットワークを設けることを計画中である。	○	予定している横浜市グループホーム連絡会への加入、また、地域内のグループホームとのネットワーク構築により、同業者との交流、相互訪問研修等の活動を通じて、サービスの質の向上に努めることを期待します。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入所前に本人・家族に面談し、家庭での生活状況や要望を把握するように努めている。 ・本人・家族の事業所見学の際に入居後の生活を安心して戴くため、他入居者の状況や事業所の雰囲気を見てもらっている。 ・居室には可能な限り家庭で使用していたものを持ち込むなど、本人に安心感を与えると共に、日常の支援活動の中で、徐々に馴染むように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者には過去の生活歴を尊重し、掃除、配膳、下膳などを自主的に協力して貰っている。 ・その他、出来るだけ一緒に過ごす時間を取るよう努力し、その中で料理や歴史など、利用者から学ぶことが多い。 ・利用者は人生の先輩として、職員の健康状態などに掛けてくれている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の利用者どのかかわりを通して、会話の内容、表情などから希望、意向を把握している。 ・意思疎通の困難な利用者の場合は、表情、しぐさを見て、希望・意向を把握している。 ・これらを個人別連絡帳に記入し、必要に応じてミーティングで検討して対応し、その内容を家族に報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・毎月2回ケアカンファレンスを行い、家族の意見、希望、医師の意見を反映した介護計画の検討、作成を行っている。 ・カンファレンスに出席できなかった職員には、記録を回覧し、情報の共有を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行なうが、その間に緊急な変更を要する場合は本人、家族と話し合い、その都度変更を行っている。 ・見直した介護計画は家族に報告している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人や家族の要望がある場合の通院時の付き添いサービスを行うほか、その他介護関係諸施設の紹介など、事業所の機能を生かし臨機応変に協力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関として、菊名記念病院(内科、外科、整形外科、脳神経外科)、新横浜中央クリニック(隔週往診あり)、中川歯科診療所(毎週往診あり)と契約している。 ・希望により利用者の従来からのかかりつけ医への受診も支援している。 ・利用者、職員は健康診断を年1回受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・「重度化した場合の対応に係わる指針」があり、職員に周知するよう務めている。 ・重度化した場合や終末期のあり方については、本人、家族、医師と話し合った上で事業所としての対応を考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の誇りを損なわない言葉かけを心掛け、苗字で呼びかけることを徹底している。 ・排泄介助のときは、さりげないトイレ誘導など人目に触れないように配慮している。 ・個人情報記載文書は必ず施錠保管し、廃棄時はシュレッダーにかけて処分している。 		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりが主体的に過ごすことの出来るように、利用者一人ひとりの生活リズムを尊重している。 ・共同空間の中でも談笑できる場所、一人であることも出来る場所などを設け、一人ひとりが思い思いに過ごすことが出来るような支援に努力している。 		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の食事は、職員と一緒に活動する楽しみが持てるように、できる方には配膳、後片づけをお願いしている。 ・行事食を作るときは、利用者が何を食べたいか意向を聞いて、可能な方には調理に参加して貰っている。 ・時には外食やお弁当を取る機会も設け、一人ひとりの好みに添うようにしている。 		
23	57	○入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する人は毎日入浴でき、入浴時間は職員の勤務時間内であれば、利用者のペースに合わせて自由にしている。 ・同性介助は職員の構成上実施できないが、違和感なく入浴している。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の一人ひとりの暮らし方を尊重し、事業所のプログラムを押し付けないよう配慮している。 ・入所前に、家族から利用者の趣味などの情報を得て、その人らしい主体的な暮らしができるよう支援している。 ・食事の後片付けや、洗濯物の片付けなど、利用者が当番を決めて楽しみながらやっている。 		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は近くに散歩に出かけている。 ・電車で買い物や美容院に行ったり、郵便局に出かける人も付き添いの支援をしている。 ・車椅子の利用者は、散歩以外の時も玄関先で外気に触れるように支援している。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関は防犯上の理由から日中も鍵をかけているが、外出希望時は、必要に応じて職員が付き添い対応している。 ・各居室は鍵をかけず、利用者に任せている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・災害を想定して、本年10月に事業所の設備施工業者と共に、避難訓練を行う計画である。 ・消防署の協力を得て、消火器の使い方などの訓練を受けている。	○	・非常時のための食糧、飲料水の備蓄を確保すること、また、本年10月予定の避難訓練を実施することを期待します。 ・更に災害発生時に、自治会の協力支援をうけることができるように話し合うことも期待します。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事のメニュー、食材は業者に委託している。 ・カロリーなどはメニュー表で把握しており、食事の摂取量は職員が食事ごとにチェックしている。 ・水分摂取状況について、管理が必要な利用者については水分摂取量を記録して対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共同空間は明るく、窓辺から野菜畑の緑が望まれ、風通しが良い。 ・壁には自作の俳句が掲示され、季節感に合った花や飾り付けが行われている。 ・外気温との差が大きくなるよう、室温に気を使っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れたタンスや調度品、仏壇を置いたり、家族の写真飾って、個性ある居室になっている。 ・テレビを置いて楽しんでいる利用者もいる。 ・共同生活空間と各居室に空調設備があり、居室も好みの室温で過ごせるようにしている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	みんなの家 横浜小机
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	横浜市港北区小机町2170
記入者名 (管理者)	渡辺 貴美
記入日	平成 20 年 4 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービスとしての役割について勉強会を行い、職員全員に各自の理念を提出してもらい、それを基にして事業所理念を作成。「地域の方と交流を大事にし助け合って行きます。」</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>各職員が上げた理念を念頭に事業所の理念を作成し運営を行っている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	<p>「理念」は運営推進会議、家族会を通して告知していく。地域住人にも理解して頂けるよう情報を伝える。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>開所前に内覧会を開き近隣住人や関係機関に見学会を開いている。現在は、周囲の農作業の方と話をしたり野菜や花を頂いている。近隣住人や農作業者に施設のトイレを貸すこともある。地域の美容院、歯科医院とは顔なじみになっている</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に加入し地域の人達と交流を深める。グループホームへの正しい理解をしてもらえるよう情報を発信していく。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域包括センターと連携をとりグループホームが地域に向けて出来ることや、地域包括センターと協働で出来ることを検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義、必要性についての研修を行い、スタッフ全員で自己評価を行った。初めての外部評価なので今回の自己評価の中での気づきを今後の運営に生かしていく。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3/8に第1回運営推進会議を開催した。出席者からの意見の中、実行出来るものから検討している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護担当者に相談したり助言を頂いている。事故があった際は再発防止の改善策を職員間で話し合い横浜市に報告している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持っていない	○	今後、研修の参加して学んだことを職員にも伝えていく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待と思われる事を会議で話し合い、虐待する事での弊害を理解している。職員全員が意識をもって虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書の説明はしている。不明な点の質問や疑問はその場で聞きながら契約書の手続きを進めている。納得できない事があった場合の連絡先も説明している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に1回の職員会議をフロアで行っている。利用者の不満や意見は、気がついた職員が申し送りに記入しカンファレンス等で話し合い対応を考えている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>1ヶ月に1度、生活状況や健康面、金銭管理等の報告を書面にて郵送している。その他に随時、電話での報告や必要時は、直接お伝えしたり、書面を手渡し説明したり、書類を郵送したり状況に合わせて報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見、ご提案ポストを設置し意見、不満、苦情を運営に反映させている。また面会時や電話連絡時にもご家族の意見、不満、苦情、を聞き出せる様な人間関係作りをしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者は、ご意見、ご提案ポストを設置し運営に反映させている。管理者は、個人面談をしたり口頭、書面で意見を聞く体制を作っている。会議、カンファレンスで意見を聞いている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>シフト表により勤務時間も調整し状況の変化、要望に対応出来る様に努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は、職員と面談機会を作り、不安や悩みなどを聞き働きやすい環境作りをしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修機会を設け働きながら学べる環境を作っている。半年に1回職員の人事考課を行い、自己目標の設定しモチベーションの維持と給与に反映させ離職を抑えられるようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括センターと連携をとり他事業所と協働でできる事を検討している。他事業所と定期的話し合える場について検討している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>短時間の休憩を少しずつ各個人のタイミングでとっている。半年に一度職員の評価を行い自己目標の設定を行う事でモチベーションの維持と給与に反映させている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修機会を設け働きながら学べる環境を作っている。半年に1回職員の人事考課を行い、自己目標の設定しモチベーションの維持と給与に反映させ離職を抑えられるようにしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に本人、ご家族と会う機会を作り話合っている。本人、ご家族、別々でお会いする事もあり、本人の意向や家族の意向を直接聞き取っている。必要時は、再度訪問したり電話連絡などで本人、家族とコミュニケーションをとっている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に本人、ご家族と会う機会を作り話合っている。本人、ご家族、別々でお会いする事もあり、本人の意向や家族の意向を直接聞き取っている。必要時は、再度訪問したり電話連絡などで本人、家族とコミュニケーションをとっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要時は担当CMと連絡を取り、本人やご家族にとって必要なサービスについて話合っている。ご家族、本人と話合っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に何度も本人、ご家族を訪れ話し合う。見学時に他利用者と接して頂く。入居する時には顔見知りの関係は作れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	不慣れなことや出来ないことへの支援、得意なこと出来ることは自主的にやって頂いている。一緒に生活を過ごしながら小さな喜び、発見、哀しみに共感し理解する努力をしている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	1ヶ月に1度、家族宛てに手紙を郵送しており、状況報告している。必要時は、電話で相談したり意向を確認したり、ケアプランを作成し家族と職員が共通の目標を持ち支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前から情報収集に努め、入居後もご家族と細やかに連携をとっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人との外出や面会を大切にしている。手紙を出す事の支援を行っている。携帯電話を持ち自室から友人に連絡を取っている利用者もいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の生活習慣を前提にして家族相談、職員会議等で検討している。その中で共同生活理解を促している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームの契約が終了しても再契約の依頼を受ける事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の記録を残して記録の中から本人の言葉、行動、表情等から本人の意向を把握する。随時、職員間の会議で検討したり、家族に相談している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に実態調査を行い、情報を収集している。入居後も本人や、家族、日々の記録から情報収集し生活歴を把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	安全管理しながら自由に生活して頂きその中で本人の状態把握に努めている。カンファレンス、会議、申し送り等で日勤帯、夜勤帯の様子の情報を集めて状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中から生活を快適にする為必要な事項を職員、本人、ご家族、関係機関を含めて検討し介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活状況の中から情報収集し職員間、家族と話し合い見直しの検討を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は、様子がわかるものをより具体的に記入し、日々の新しい情報として介護計画の見直しに生かしている。心理面では、生活全般の情報や状況を参考にしてカンファレンス等で検討しながら介護計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	非常勤看護職員を配置し、看護師による健康管理を行い医療連携体制の充実に努めている。協力機関の訪問診療、歯科、薬局と居宅療養管理指導のサービスを利用し利用者が安心して暮らせる環境づくりに努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の検査の時防災、防火について助言をもらった	○	消防署の協力を仰いで避難訓練、消火訓練、救命指導を実施する
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括センターの主任ケアマネジャーと協議してデイサロンを利用させて頂いている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターと協働し今後地域に向けての活動を検討している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を確認した上でかかりつけ医の受診ができる環境を作っている。希望により協力医療機関での受診と馴染みの医療機関を定期的に受診されている方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	職員や利用者が医療機関に個別に相談したり医療面での指示を伺うことができる。利用者と医療機関がコミュニケーションをとれている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤看護職員を配置し、看護師による健康管理を行い医療連携体制の充実に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	支援状況を担当関係者、家族、本人と話し合い退院後の不安を和らげ早期に退院できるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族に重度化した場合の対応を入居時に説明している。本人、ご家族の意思を可能な限り尊重し出来る事を関係機関の協力を得ながら話し合い、選択してもらえる環境を作っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、ご家族の意思を可能な限り尊重し出来ることを関係機関等の協力を得ながら話し合い、できる事とできない事を提示し最終的には選択してもらえる体制を作っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係機関担当者と話し合い、本人の不安を和らげより良い支援を受けられる様に情報提供している。必要時は関係機関担当者、本人、ご家族、事業所職員で今後の支援の方向性について話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助や入浴介助などプライベートに配慮しながら介助を行っている。記録等の取扱いは個別に管理し、閲覧する場合や持ち出す場合は手渡しで行う事にしており取り扱いも配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉だけではなく行動や感情も本人の意思表示と考え、見逃さない様な気配りをしている。選択でき、自己決定できる環境作りに努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの生活ペースを優先に支援している。就寝時間も特に決めておらず利用者のペースを大切にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望に合わせて外出し希望する店 理、美容にお連れしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳、食後の洗物、テーブル拭きも個々の状況に合わせて利用者同士が協力しながら行っている。制限がない場合は味付け、分量も利用者の好みで行える体制を作れている。外食やお弁当で食事の変化をつけている。制限がない場合は、イベント時にお酒も提供している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は好きな物を聞いて出している。ヤクルトなど自由に購入している。おやつも制限のある方以外は自由に行っている。買い物で好きな物を購入している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の意向、安心感を考え排泄介助を行っている。排泄パターンを把握し時間おきにトイレ誘導している。その方に合った排泄を心がけている。オムツやパッドも他の人の目に入らない所に置くようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間やタイミングは利用者の習慣や希望に沿って行っている。利用者の生活ペースを優先できるように可能な限り職員の勤務時間を調整している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣や現状に合わせ、家族や関係者と話し合い検討し総合的に判断している。可能な限り本人の生活習慣や意向を優先している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のアセスメントからカンファレンスや会議で検討し日々の生活の中で個別に支援している。必要時にご家族、関係機関、入居前のサービス事業所等から情報収集している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際など、管理しているお金をサイフに入れ本人に手渡し出掛ける様にしている。本人の意向によっては、話し合い本人管理でお金を所有する利用者もおり個別の状況に応じて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散髪や理美容時など外出されている。場所によっては、電車を使い外出したり、歩行困難な利用者は玄関先で外気にふれてもらっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人から希望があれば、家族と連絡調整し協力を得て外出できるよう支援している。歩行が安定している方数人に職員がついて電車に乗って外出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室で本人の携帯電話を使用されたり、事業所の電話を使用し連絡をとって頂いている。手紙も自主的に書かれている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室での面会時は椅子を各居室に用意しお茶の提供や空調の調整をしている。家族面会者に対して必要な情報を提供したり食事の提供、おやつ提供もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束として考えられる行為を掲示している。意識的に身体拘束をしない事、無意識でも身体拘束にみなされる行為や環境を作らない事を職員全体で意識し取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、防犯上の理由から玄関のみ施錠している。居室、廊下、フロアは利用者の生活空間を制限しない様に鍵はかけていない。夜間時は全て施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら安全確認している。職員の人数が限られている時は、全体が把握できる位置で利用者の行動を予測し安全管理に努めている。行動予測が出来る様にカンファレンス、会議で情報を共有している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて職員の目の届きやすい場所に保管したり、職員が管理している。使用可能な方は爪きりやはさみ、化粧品を所持している。居室の食品の期限切れに注意している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の行動を予測し安全管理に努めている。行動予測を職員が出来る様に情報を共有している。ヒヤリハット報告書や事故報告書をもとにカンファレンス、会議等で原因を解明し再発防止の対応策を検討をしている。防火点検の定時巡回を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故や急変が起こった場合のマニュアルを作成し掲示している。マニュアルを基本としながらも臨機応変な対応の確認を随時行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難経路を掲示している。夜間時も近隣在住の職員からの協力体制は作れている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	制限のない生活にはリスクがあり本人に対しての生活支援として安全で制限のない生活を送っていただける様に随時話し合い協力して頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の口頭での申し送り、記録での確認、報告連絡相談、を毎日徹底し、職員間の情報共有、関係機関への情報伝達、異変時等の早期発見、対応が行える様に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の一覧表があり確認し理解できる体制を作っている。イレギュラーなケースでの薬品に関しても薬局、訪問診療医と連携がとれる体制を作っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便パターンを記録し把握する努力をしている。必要時はご家族、医療機関への相談もしている。水分量、適度な運動、食事内容、食事量、食事形態等を確認し便秘の原因を探り、予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	チェック表を作り毎食後口腔ケアをして頂けるように支援している。歯科医師、歯科衛生士の指導のもと口腔ケアを行っており、支援が必要は利用者には個別でケアを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養価はメニュー表で把握している。食事形態、食事量、水分量の把握も出来ている。状態や習慣も含め必要時は食事量、水分量をご家族、協力医療機関等に報告し話し合い評価、検討している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事前の手洗い、ヒビスコールの消毒を徹底している。感染の予防マニュアルがありマニュアルに沿って対応している。外出後のうがい、手洗いの徹底。インフルエンザの予防接種を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器拭き用布巾、台布巾はその都度消毒、洗濯し、食材管理は、日付けを確認し衛生管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先は常に整理整頓を心がけ、気持ちよく来訪して頂ける様に、季節に合わせた生花を飾っている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや玄関は、季節感に合った飾り付けや季節の草花の飾りをしている。外気温との差が極端に大きくならない様に空調を管理している。居室の巡視用の小窓に小さいカーテンをつけ不快な光が入らない様にしている。座席の足元に浮腫み予防に足台を置いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで過ごせる空間、1人で過ごせる空間、1人でいながら集団でいる事を感じられる空間、を環境支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族や本人と相談して、使い慣れた家具や好みの家具を使用したり、携帯電話を持ち込んだり本人の好みの居室を提供している。どの居室に入居するかを生活習慣に合わせてご家族や本人と相談している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室の換気は業務の中で定期的に行っている。温度調節は、本人と話し合いながら適切な空調管理を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活しやすい様な動線の確保をしている。プライベートな空間にはコールボタンを設置している。必要時に使用出来る様に予備用の車椅子を準備している。本人と相談し個別に居室の家具の配置を変えるなど安全に生活しやすい環境作りに努めている。 歩行困難の方は夜間だけポータブルトイレを使用されてい		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に表札をつけている。トイレ、浴室の出入り口に部屋名を明記し絵柄でも理解できるように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日や、花見の季節など中庭で昼食にしたり、中庭でお茶やおやつを楽しんでいる。夏には花火を楽しんだ。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・自主性を大事にし、必要な人に必要なサービスをする

・季節行事御誕生日など職員が積極的に計画し演出し利用者と共に楽しむ

・優しい暖かな雰囲気ホーム作り
・協力しあうスタッフの存在

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	みんなの家 横浜小机
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	横浜市港北区小机町2170
記入者名 (管理者)	原 千栄子
記入日	平成 20 年 4 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービスとしての役割について勉強会を行い、職員全員に各自の理念を提出してもらい、それを基にして事業所理念を作成。「地域の方と交流を大事にし助け合って行きます。」</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>各職員が上げた理念を念頭に事業所の理念を作成し運営を行っている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	<p>「理念」は運営推進会議、家族会を通して告知していく。地域住人にも理解して頂けるよう情報を伝える。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>開所前に内覧会を開き近隣住人や関係機関に見学会を開いている。現在は、周囲の農作業の方と話をしたり野菜や花を頂いている。近隣住人や農作業者に施設のトイレを貸すこともある。地域の美容院、歯科医院とは顔なじみになっている</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に加入し地域の人達と交流を深める。グループホームへの正しい理解をしてもらえるよう情報を発信していく。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域包括センターと連携をとりグループホームが地域に向けて出来ることや、地域包括センターと協働で出来ることを検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義、必要性についての研修を行い、スタッフ全員で自己評価を行った。初めての外部評価なので今回の自己評価の中での気づきを今後の運営に生かしていく。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3/8に第1回運営推進会議を開催した。出席者からの意見の中、実行出来るものから検討している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護担当者に相談したり助言を頂いている。事故があった際は再発防止の改善策を職員間で話し合い横浜市に報告している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持っていない	○	今後、研修の参加して学んだことを職員にも伝えていく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待と思われる事を会議で話し合い、虐待する事での弊害を理解している。職員全員が意識をもって虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書の説明はしている。不明な点の質問や疑問はその場で聞きながら契約書の手続きを進めている。納得できない事があった場合の連絡先も説明している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月に1回の職員会議をフロアで行っている。利用者の不満や意見は、気がついた職員が申し送りに記入しカンファレンス等で話し合い対応を考えている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>1ヶ月に1度、生活状況や健康面、金銭管理等の報告を書面にて郵送している。その他に随時、電話での報告や必要時は、直接お伝えしたり、書面を手渡し説明したり、書類を郵送したり状況に合わせて報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見、ご提案ポストを設置し意見、不満、苦情を運営に反映させている。また面会時や電話連絡時にもご家族の意見、不満、苦情、を聞き出せる様な人間関係作りをしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者は、ご意見、ご提案ポストを設置し運営に反映させている。管理者は、個人面談をしたり口頭、書面で意見を聞く体制を作っている。会議、カンファレンスで意見を聞いている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務のシフト表を作っている。勤務時間も調整し状況の変化、要望に対応出来る様に努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は、職員と面談機会を作り、不安や悩みなどを聞き働きやすい環境作りをしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修機会を設け働きながら学べる環境を作っている。半年に1回職員の人事考課を行い、自己目標の設定しモチベーションの維持と給与に反映させ離職を抑えられるようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括センターと連携をとり他事業所と協働でできる事を検討している。他事業所と定期的に話し合える場について検討している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>短時間の休憩を数回とっている。各個人のタイミングで休憩をとっている。半年に一度職員の評価を行い自己目標の設定を行う事でモチベーションの維持と給与に反映させている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修機会を設け働きながら学べる環境を作っている。半年に1回職員の人事考課を行い、自己目標の設定しモチベーションの維持と給与に反映させ離職を抑えられるようにしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に本人、ご家族と会う機会を作り話合っている。本人、ご家族、別々でお会いする事もあり、本人の意向や家族の意向を直接聞き取っている。必要時は、再度訪問したり電話連絡などで本人、家族とコミュニケーションをとっている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に本人、ご家族と会う機会を作り話合っている。本人、ご家族、別々でお会いする事もあり、本人の意向や家族の意向を直接聞き取っている。必要時は、再度訪問したり電話連絡などで本人、家族とコミュニケーションをとっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要時は担当CMと連絡を取り、本人やご家族にとって必要なサービスについて話合っている。ご家族、本人と話合っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に何度も本人、ご家族を訪れ話し合う。見学時に他利用者と接して頂く。入居する時には顔見知りの関係は作れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	不慣れなことや出来ないことへの支援、得意なこと出来ることは自主的にやって頂いている。一緒に生活を過ごしながら小さな喜び、発見、哀しみに共感し理解する努力をしている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	1ヶ月に1度、家族宛てに手紙を郵送しており、状況報告している。必要時は、電話で相談したり意向を確認したり、ケアプランを作成し家族と職員が共通の目標を持ち支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前から情報収集に努め、入居後もご家族と細やかに連携をとっている。本人の意向が家族の意向、になっている事が多くみられる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人との外出や面会を大切にしている。手紙を出す事の支援を行っている。携帯電話を持ち自室から友人に連絡を取っている利用者もいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の生活習慣を前提にして家族相談、職員会議等で検討している。その中で共同生活理解を促している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームの契約が終了しても再契約の依頼を受ける事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の記録を残して記録の中から本人の言葉、行動、表情等から本人の意向を把握する。随時、職員間の会議で検討したり、家族に相談している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に実態調査を行い、情報を収集している。入居後も本人や、家族、日々の記録から情報収集し生活歴を把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	安全管理しながら自由に生活して頂きその中で本人の状態把握に努めている。カンファレンス、会議、申し送り等で日勤帯、夜勤帯の様子の情報を集めて状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中から生活を快適にする為必要な事項を職員、本人、ご家族、関係機関を含めて検討し介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活状況の中から情報収集し職員間、家族と話し合い見直しの検討を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は、様子がわかるものをより具体的に記入し、日々の新しい情報として介護計画の見直しに生かしている。心理面では、生活全般の情報や状況を参考にしてカンファレンス等で検討しながら介護計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	非常勤看護職員を配置し、看護師による健康管理を行い医療連携体制の充実に努めている。協力機関の訪問診療、歯科、薬局と居宅療養管理指導のサービスを利用し利用者が安心して暮らせる環境づくりに努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の検査の時防火、防災について助言をもらえた。	○	消防署の協力を仰いで避難訓練、消火訓練、救命指導を実施する
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括センターの主任ケアマネジャーと協議してデイサロンを利用させて頂いている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターと協働し今後地域に向けての活動を検討している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を確認した上でかかりつけ医の受診ができる環境を作っている。希望により協力医療機関での受診と馴染みの医療機関を定期的に受診されている方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	職員や利用者が医療機関に個別に相談したり医療面での指示を伺うことができる。利用者と医療機関がコミュニケーションをとれている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤看護職員を配置し、看護師による健康管理を行い医療連携体制の充実に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	支援状況を担当関係者、家族、本人と話し合い退院後の不安を和らげ早期に退院できるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族に重度化した場合の対応を入居時に説明している。本人、ご家族の意思を可能な限り尊重し出来る事を関係機関の協力を得ながら話し合い、選択してもらえる環境を作っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、ご家族の意思を可能な限り尊重し出来ることを関係機関等の協力を得ながら話し合い、できる事とできない事を提示し最終的には選択してもらえる体制を作っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係機関担当者で話し合い、本人の不安を和らげより良い支援を受けられる様に情報提供している。必要時は関係機関担当者、本人、ご家族、事業所職員で今後の支援の方向性について話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助や入浴介助などプライベートに配慮しながら介助を行っている。記録等の取扱いは個別に管理し、閲覧する場合や持ち出す場合は手渡しで行う事にしており取り扱いも配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉だけではなく行動や感情も本人の意思表示と考え、見逃さない様な気配りをしている。選択でき、自己決定できる環境作りに努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの生活ペースを優先に支援している。就寝時間も特に決めておらず利用者のペースを大切にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望に合わせて外出し希望する店 理、美容にお連れしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳、食後の洗濯、テーブル拭きも個々の状況に合わせて利用者同士が協力しながら行っている。制限がない場合は味付け、分量も利用者の好みで行える体制を作れている。外食やお弁当で食事の変化をつけている。制限がない場合は、イベント時にお酒も提供している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は好きな物を聞いて出している。ヤクルトなど自由に購入している。おやつも制限のある方以外は自由に行っている。おやつも買い物に行き自由に行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の意向、安心感を考え排泄介助を行っている。排泄パターンを把握し時間おきにトイレ誘導している。その方に合った排泄を心がけている。オムツやパッドも他の人の目に入らない所に置くようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間やタイミングは利用者の習慣や希望に沿って行っている。利用者の生活ペースを優先できるように可能な限り職員の勤務時間を調整している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣や現状に合わせて、家族や関係者と話し合い検討し総合的に判断している。可能な限り本人の生活習慣や意向を優先している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のアセスメントからカンファレンスや会議で検討し日々の生活の中で個別に支援している。必要時にご家族、関係機関、入居前のサービス事業所等から情報収集している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際など、管理しているお金をサイフに入れ本人に手渡し出掛ける様にしている。本人の意向によっては、話し合い本人管理でお金を所有する利用者もおり個別の状況に応じて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散髪や理美容時など外出されている。場所によっては、電車を使い外出したり、歩行困難な利用者は玄関先で外気にふれてもらっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人から希望があれば、家族と連絡調整し協力を得て外出できるよう支援している。歩行が安定している方数人に職員がついて電車に乗って外出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室で本人の携帯電話を使用されたり、事業所の電話を使用し連絡をとって頂いている。手紙も自主的に書かれている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室での面会時は椅子を各居室に用意しお茶の提供や空調の調整をしている。家族面会者に対して必要な情報を提供したり食事の提供、おやつ提供もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束として考えられる行為を掲示している。意識的に身体拘束をしない事、無意識でも身体拘束にみなされる行為や環境を作らない事を職員全体で意識し取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、防犯上の理由から玄関のみ施錠している。居室、廊下、フロアは利用者の生活空間を制限しない様に鍵はかけていない。夜間時は全て施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら安全確認している。職員の人数が限られている時は、全体が把握できる位置で利用者の行動を予測し安全管理に努めている。行動予測が出来る様にカンファレンス、会議で情報を共有している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて職員が目届きやすい場所に保管したり、職員が管理している。使用可能な方は爪きりやはさみ、化粧品を所持している。居室の食品の期限切れに注意している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の行動を予測し安全管理に努めている。行動予測を職員が出来る様に情報を共有している。ヒヤリハット報告書や事故報告書をもとにカンファレンス、会議等で原因を解明し再発防止の対応策を検討をしている。防火点検の定時巡回を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故や急変が起こった場合のマニュアルを作成し掲示している。マニュアルを基本としながらも臨機応変な対応の確認を随時行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難経路を掲示している。夜間時も近隣在住の職員からの協力体制は作れている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	制限のない生活にはリスクがあり本人に対しての生活支援として安全で制限のない生活を送っていただける様に随時話し合い協力して頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の口頭での申し送り、記録での確認、報告連絡相談、を毎日徹底し、職員間の情報共有、関係機関への情報伝達、異変時等の早期発見、対応が行える様に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の一覧表があり確認し理解できる体制を作っている。イレギュラーなケースでの薬品に関しても薬局、訪問診療医と連携がとれる体制を作っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便パターンを記録し把握する努力をしている。必要時はご家族、医療機関への相談もしている。水分量、適度な運動、食事内容、食事量、食事形態等を確認し便秘の原因を探り、予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	チェック表を作り毎食後口腔ケアをして頂けるように支援している。歯科医師、歯科衛生士の指導のもと口腔ケアを行っており、支援が必要は利用者には個別でケアを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養価はメニュー表で把握している。食事形態、食事量、水分量の把握も出来ている。状態や習慣も含め必要時は食事量、水分量をご家族、協力医療機関等に報告し話し合い評価、検討している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事前の手洗い、ヒビスコールの消毒を徹底している。感染の予防マニュアルがありマニュアルに沿って対応している。外出後のうがい、手洗いの徹底。インフルエンザの予防接種を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器拭き用布巾、台布巾はその都度消毒、洗濯し、食材管理は、日付けを確認し衛生管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先は常に整理整頓を心がけ、気持ちよく来訪して頂ける様に、季節に合わせた生花を飾っている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや玄関は、季節感に合った飾り付けや季節の草花の飾りをしている。外気温との差が極端に大きくならない様に空調を管理している。居室の巡視用の小窓に小さいカーテンをつけ不快な光が入らない様にしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで過ごせる空間、1人で過ごせる空間、1人でいながら集団でいる事を感じられる空間、を環境支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族や本人と相談して、使い慣れた家具や好みの家具を使用したり、携帯電話を持ち込んだり本人の好みの居室を提供している。家族や自分の若かった頃の写真を飾られている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室の換気は業務の中で定期的に行っている。温度調節は、本人と話し合いながら適切な空調管理を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活しやすい様な動線の確保をしている。プライベートな空間にはコールボタンを設置している。必要時に使用出来る様に予備用の車椅子を準備している。本人と相談し個別に居室の家具の配置を変えるなど安全に生活しやすい環境作りに努めている。歩行困難の方は夜間だけポータブルトイレを使用されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に表札をつけている。トイレ、浴室の出入り口に部屋名を明記し絵柄でも理解できるように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日や、花見の季節など中庭で昼食にしたり、中庭でお茶やおやつを楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・自主性を大事にし、必要な人に必要なサービスをする

・季節行事御誕生日など職員が積極的に計画し演出し利用者と共に楽しむ

・優しい暖かな雰囲気ホーム作り
・協力しあうスタッフの存在

